

## 平成 19 年度 第 1 回長野市総合計画審議会（H19.7.17）議事の内容

議事（１）第四次長野市総合計画並びに実施計画について事務局から説明（省略）

議事（２）長野市重点施策推進本部の設置について事務局から説明（省略）

（意見なし）

議事（３）重点施策の概要について各担当部局長から説明（省略）

- ・ 5. 中山間地域の活性化について、現時点での特記事項及び課題の中では、522-01「中山間地域の農業振興」として有害鳥獣の対策がないと、中山間地域の活性化は不可能だと思ふ。長野県などと協力して対応してもらいたいが、いかがか。  
有害鳥獣防除対策として、それぞれの地区に対策委員会等を設置し、補助を出すなど対策を進めているところである。また、熊や鹿などによる人身への被害も危惧され、大きな問題であると認識している。有害鳥獣の生態を見極めながら、どのように対策を講じていったら良いかということ踏まえて、今後、柵の設置や捕獲等に助成していきたい。また、近々、各地区の代表者による意見交換をする中で、今年度の対策を進めていきたい。
- ・ 9. 子育て・子育て環境の整備について、余裕教室等の活用ということだが、余裕教室がないような地域の問題も頭に入れて、各地区も入れた連携をとった中で早急な対策の検討を進めてもらいたい。  
放課後の子どもの居場所については、学校の空き教室がなかなか空いていないという話もあるが、放課後子どもプランの推進委員会の事務局としては、保健福祉部と教育委員会が連携を取りながら、地域の小学校にも協力をしてもらい、何とか教室を空けてもらえないかどうか、また、体育館やグラウンドも使えると思うので、今後も検討したい。
- ・ 10. 防災対策の推進について、危機管理防災課では防災マップを作成するということが、市の危機管理防災課を中心としていくのか、住民に関係する課の中でやっていくのか。  
危機管理防災課だとか、保健福祉部だということではなく、横の連絡を取りながら、まず個人情報をどうするかということを中心に説明できるようにしてから一歩進もうということ現在検討中である。

- ・ 洪水ハザードマップは、実際には住民がどこへ避難したら良いのかということが分かりにくく、また、避難場所が指定されていても、そこが機能しないような場所も地域によっては見受けられる。

洪水ハザードマップは、千曲川が最大の被害が起きた場合を想定して作成しており、既に該当地区の住民に配布している。指摘のように、ハザードマップの浸水区域に避難所となっているところもあり、大きな災害が発生した場合に、使えないところもあるかもしれないが、住民が、自分は一体どこに住んでいて、災害が発生した場合にどこへ避難するのかという意識を常に持つことを啓発していこうということで、説明会等を開催している。

#### 議事（４）特定課題について事務局から説明（省略）

- ・ 2. 多彩な文化の創造と文化遺産の継承について、歴史、文化遺産の保存、継承、活用はかなり重点があるような気がした。現在、芸術、文化活動の促進・支援や、新しい文化の創造にもう少し市としての姿勢、条例の策定などに取り組んでいると思うが、例えば生涯学習課、文化財課に企画課などの違う要素の視点を入れて、新しい文化の創造にも市として積極的に取り組んでいく姿勢を見せてもらいたい。

文化に関しては、条例でいくのか、ビジョンでいくのかということを含めて、長野市の文化・芸術行政そのものをどのように進めていくのかということが根本になる。その上で、論議する中で進めていきたい。

- ・ 都市計画マスタープランを作成し、コンパクトなまちづくりを推進しているわけだが、昭和40年くらいに作られた従来の都市計画との整合性については、今後どのような考えで進めていくのか。

長野市の都市計画は、大正14年の旧都市計画法に基づいて規定されており、この間、何回も見直しをして現在に至っているが、都市開発に伴う街路事業やいろいろな都市整備については、手をつけていない部分もだいぶある。これについては、新たに見直しをして、廃止するものは廃止し、続けていくものは続けていくという判断をしていきたい。また、このことについては、市民にも公表していきたいと考えている。

- ・ 長野市は、国から中心市街地活性化基本計画の認定をもらい、門前都市長野をいかに、或いはコンパクトなまち長野を目指すとうキーワードがある中で、民間の高層マンションが建っているのも事実。総合計画や都市計画の中で、連携して「長野らしさ」をいかした中心市街地をつくっていくという具体的な方策はできているのか。
- ・ 門前都市として選ばれたわけだから、はっきりとゾーニングをしていかないと、大門の

近辺に高層マンションが建つことも有り得る。しっかりと歯止めをかけていかないと、まちづくりはできないのではないかと心配している。

中心市街地活性化にかかわるいろいろな事業内容のうち、49 事業を実施していく。指摘のように課題はあるが、中心市街地の活性化については、ハード面だけではなく、ソフト面が重要であると考えている。

- ・ 9. 子育て・子育て環境の整備の特定課題として取り組む事項として挙げられている、民間事業所等を取り込んだ新たな少子化・子育て対策の取組について、買い物の割引制度という説明があったが、もう少し詳しく聞きたい。

子育て中のお母さんが商店街で買い物をすると5%ほど割引になるという制度で、現在、松本市で実施されている。そのようなものが長野市でもできないかということで、事業所連絡協議会に、協力をしてもらえるかを投げかけている段階で、事業所側からは、協力は吝かではないという話をもらっている。松本市は、参加している事業所の数が非常に少ないと聞いているので、できるだけ多くの事業所に参加していただけるようなものを考えていってはどうかと思っている。

- ・ 民間事業所等を取り込んだ新たな少子化・子育て対策の取組については、十分な研究や検討を重ねてもらいたい。特に、子どもを持たない人への配慮や心配りという点においては、これが将来にわたって解消していけるのかどうかという視点を常に欠かさずに取り組んでもらいたい。

- ・ 少子化問題は、最初に取り組むべき問題ではないだろうか。少子化問題に対する長野モデルを提案できないものか。

少子化問題は、今後、社会的基盤がどのように変わっていくのかという部分で、大きく関わってくる問題である。現在、次世代育成という形で高度計画をつくっているが、これをやったから出生率が上がったのかどうかという検証が非常に難しく、いろいろなことを試しながらやっていかなければならない。子育て支援については、従来は、働く環境の整備という形で育児休暇制度や育児休養制度などの PR や話をしていたが、もう少し踏み込んで、例えば買い物の割引制度などを導入するなど、民間の事業所の協力を得ながら取り組んでいきたい。まず、いろいろな階層の人々が子育て、子育て、少子化について意識を持つことが大切であり、その辺は、施策を通じて浸透させていきたい。

- ・ 全 386 事業の中で高齢者問題、障害者問題、福祉問題に関しては、きめ細かな施策が展開されているが、10 項目の重点施策を見ると、自分たちは安心して年を取っていけるのだろうかというところがなかなか見えにくい。今後、人口割合の多くを占める高齢者にとっては、この長野市は本当に安心して暮らせるまちとして形成されていくのだろうか

ということが非常に心配だと思う。重点施策の10項目以外は排除するのではなく、細かい部分まで気を配り、施策を実現させていくということを、丁寧に市民にもちゃんと説明する必要がある。

高齢者問題の対策については、重点施策に入れるか入れないか、議論があった。重点施策に挙がっていないからどうでも良いということではない。今後も、丁寧に物事を考え、進めていく中で、高齢化問題についても真摯に対応していきたい。

- ・まちづくりの視点は、全ての事業において必ず反映させるものとしてつくったと思うが、実際に反映されているのかどうか、これだけでは何となく分かりづらい。素晴らしい長野市にするためには、3つのまちづくりの視点を各事業の土台とすることで、より良い長野市、特徴ある長野市になる。そこで、事業ごとにチェック項目をつけて、各担当者が、本当に市民との協働になっているのか、一つ一つの事業が「長野らしさ」として成っているのか、行政経営としてどの部分を削ることができたのか等のチェックをすれば、さらに良い総合計画が実施されるのではないかと。

#### 議事（5）その他

「頑張る地方応援プログラム」の取り組みについて事務局から説明（省略）

（意見なし）